

スポーツ川崎

より速く より強く より高く 第12号

昭和60年1月1日発行
川崎市体育協会広報紙
編集・発行
川崎市体育協会広報委員会
〒210
川崎市川崎区宮本町6番地
川崎市教育委員会体育課内
044-200-3312



新年あけましておめでとうございます

川崎市体育協会会長

川崎市市長 伊藤三郎

市民のみなさまにおかれましては、1985年の新春を希望に胸ふくらませ、迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、川崎市体育協会もみなさまがたのあたたかいお力添えにより、創立37周年をむかえ、25種目団体が加盟し、組織も充実し、飛躍の段階をむかえるに至りました。

最近、マラソン、ジョギングをはじめ、スポーツに対する関心の高まりは大変なものがあります。この新しい意識は、自らの基礎健康にめざめたものでありましょう。健康スポーツから競技スポーツへの発展段階は、マイペースに進められているようです。

このような背景を考えながら、我が川崎市体育協会も、今日までに会得した知識や技能をかえりみながら、市民大会等の開催、競技力の向上と各スポーツへの参加の機会提供、普及活動の拡大、広報活動の充実等を推進して行き、市民のスポーツをより一層振興させ、健康にして文化的なまちづくりに向けて努力する考えであります。

年の初めにあたり、川崎市体育協会に対して日ごろからのご指導とご厚情にあらためて感謝申し上げるとともに、今後とも一層のお力添えをいただけますようお願い申しあげ、年頭のごあいさついたします。

1985年1月1日



中野副会長、秋の叙勲に輝く!!

本体育協会副会長の中野一雄氏は、テニスの普及振興に業績を残し、スポーツ界に大きく貢献され、去る11月3日、勲五等双光旭日章受章の榮に浴されました。その祝賀の宴が12月16日(日)川崎ニューハトヤにおいて盛大に催された。会長の川崎市市長をはじめ、県、市、スポーツ各界の方々が180名列席し、心からのお祝いをした。



第39回国民体育大会

本県天皇杯6位、皇后杯12位

法政二高バレーボール部インターハイ・国体兩種目制覇

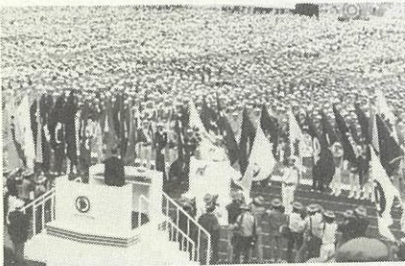
本国体は「わかさ国体」として、夏季大会は 9月8日より11日まで奈良市の水泳競技、月ヶ瀬の漕艇大会、五条市のカーヌー、大阪府芦屋市のヨット大会の4種目が盛大に行われた。

本県は 114名の選手が参加したが全く振わず、総合得点31位となりみじめな成績で敗退した。



秋季大会は「駆けよ大和路、はばたく未来」をテーマに10月12日午後0時40分天皇陛下をお迎えして、奈良市鴻の池陸上競技場に、

北海道の選手団を先頭にカラフルなユニホームの選手団が次々に入場した。本県選手団は少年男子バレーボール大会とインターハイの二種目制覇の菅野幸一君が神奈川の団旗を高々と掲げ先導し、宮森教育長が団長となって476名の大集団の行進であった。1時間余の感激的な入場行進が終り、上田奈良県知事の開会の宣言、天皇陛下のお言葉があり、次いで、ロスオリンピック大会60キロ級の金メダルに輝く細川選手(奈良工高教諭)が選手宣誓を行い開幕された。今年度のわかさ国体には47都道府県20,124名の役員選手が参加し史上最高の参加人数であった。



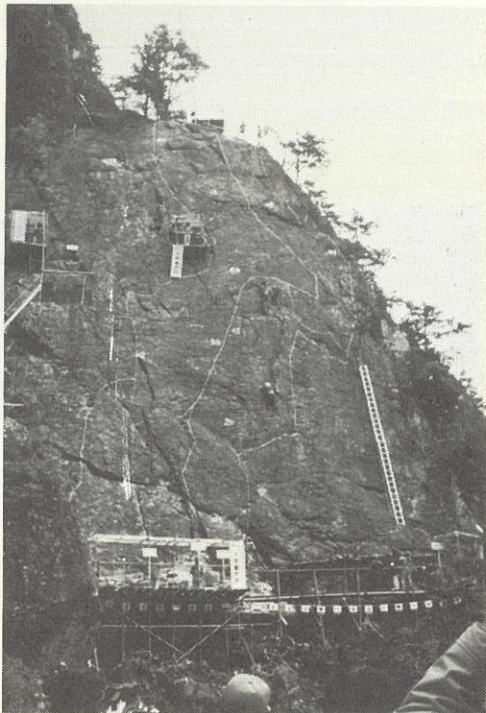
6日間の力闘が各競技に展開され、10月17日無事閉幕した。地元奈良県が天皇、皇后両杯を獲得した。然し毎年開催県が天皇杯を獲得するのはスポーツ界の10大不思議な現象といわざるをえない。本県選手団は天皇杯は、昨年のあかぎ国体の7位より6位に上ったものの、皇后杯は昨年の7位より12位に後退した。

大会の成績でサッカー少年は決勝戦で、強豪静岡を1-0で破り、サッカー少年は38年ぶりの優勝を飾った。卓球成年男子は埼玉県に逆転勝ちした。陸上競技成年女子200Mで磯崎選手が優勝、成年男子共通110M障害で水野選手が2位、同B200Mで原田選手が2位と頑張りフィナーレを飾った。競技終了後奈良市鴻の池陸上競技場で表彰式が行われ6日間の熱戦の幕を閉じた。

山 岳 競 技

奈良国体山岳競技は奈良県南部の吉野郡天川村、上北上村を中心として、大峰・大台ヶ原山系で行われる。奈良市が県の北端に位置しているので、会場へ行くためには県央部を南北に縦断する形となる。国道24号線を一路南下、途中、大和郡山市ではテニス競技、橿原市では県立橿原公苑体育館での体操競技を見学したので、宿をとった吉野山に着いたのは薄暮であった。

14日、薄曇りの吉野中千本から裏山道を山岳競技踏査会場である洞川（どろかわ）へ向かう。千メートル近い峠を二つも越す裏道の難路を越えた時、吉野山の山の深さをしみじみと思ったが、降り着いた所が天川地区洞川の会場であ



った。ここは踏査競技場であると共に、幕営技術の審査会場でもある。地元の婦人達が湯茶の接待をしてくれたが、さすが深い山ふところに入った感じで、10月とは思えぬ寒さを感じる。

【山岳競技の内容・方法等について】

山岳は昭和55年、第35回栃木国体から天皇・皇后杯を争う正式種目となったので、その競技方法・内容等について一般にはまだよく知られていない。そこで、ここでごく簡単にそれらについてご紹介をしたい。

競技は成年男子・女子が縦走、登攀、踏査の三種目、少年男子・女子が縦走、踏査の二種目となっている。各競技内容の要点は次の通りである。

縦走競技→規定重量（11チーム3人編成で、成年男子では55kg、成年女子45kg、少年男子50kg、少年女子40kg）を持ち、競技を中断させる時間（制限時間）内に定められたコースを縦走しなければならない。コースの中に“特区”と呼ぶ区域を設け、この間での所要時間を競う。別に定める規定時間（1位のチームの要する推定時間、または1位のチームの所要時間）を基準とし、各チームの所要時間から時間点を算出する。

この他に天気図を作成する競技、装備の審査、テントの設営・撤収などの審査も行い、これらの総合点が縦走競技の点数となる。

登攀競技→規定重量（男女とも3kg）の荷を持ち定められたルートから岩壁を登攀・下降する。登攀、下降に要する時間を、別に定める規定時間をもとに点数化し、時間点とする。

この他に登攀、下降中における技術的な審査がなされ、これらの合計点が得点数となる。今回の国体では制限時間は登り20分、下降到5分

間とされ、時間内に登攀が終了しなかったチームは中断とされた。

踏査競技→規定重量（11チーム3人編成で、成年男子45kg、成年女子35kg、少年男子40kg、少年女子30kg）を持ち、当日示される踏査コースに従って歩きながら、コース上の足点（10ヶ所）を確認して地図上に記入する。また、コース上の定められた地点で課題が与えられ解答する。これらに要する時間、定点記入の正確さ、課題の解答の合否などによって踏査競技の得点が算出される。定められている主な点は一磁石・定規のほかは計測に関する器具は使用できない。5カ所のチェックポイントを設け、ここを通過しない時は減点する。規定時間は事前に発表する……等である。

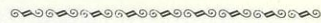
踏査会場である洞川を後にして天川村の登攀競技会場に着いた時、ちょうど神奈川県成年女子チームの競技が開始される時であった。このチームには川崎より東芝柳町工場山岳部の山口勝子選手が参加出場している。天ノ川支流の左岸、地峰（ちのみね）国有林の入口近くの東面にあるこの岩場は下部25メートル、上部25メートル、計50メートルの垂壁で、下降ルートは約20メートルとなっている。岩壁正面、向かい側の斜面には観覧台が出来ていて、競技の全ぼうが見られるようになっていた。

川崎の山口選手の活躍はめざましく、チームのトップに立って難しい垂壁をマシラの如く、何の危なげもなしに登りつめ、後続者のためにザイル確保をする素晴らしい技倆には、満場から大きな拍手が起こっていた。

この結果 神奈川成年女子チームは縦走1位、登攀・踏査ともに2位、山岳総合第2位（総合1位は奈良）の優秀な成績を残した。因みに皇

后杯の山岳ポイントは7.5点で第3位である。

大峰・大台ヶ原山系（通称“吉野群山”）は上部一帯はもう紅葉が始まっていた。その樹間を走る山間道路（169号線）あたりにまで、奈良国体の旗はひらめき、全県が旗とサルビアの花で埋まっているようであった。古都奈良とそして大和路はこの秋、近代スポーツに華々しく燃えていたのだった。

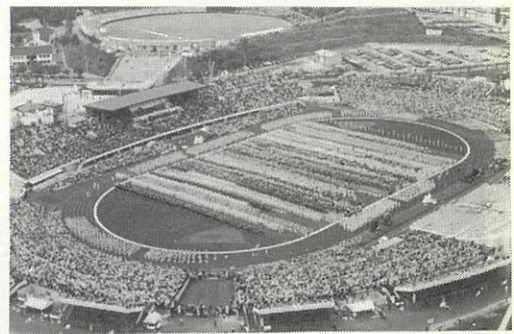


「山岳競技」神奈川県選手団の競技結果

天皇杯ポイント 9位 0点

皇后杯ポイント 3位 7.5点

種目 種別	縦 走		登 査		登 攀		合 計	
	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位
成年男子	142.90	30	65.57	25	72.51	9	280.98	16
成年女子	192.59	①	73.59	②	88.38	②	354.56	②
少年男子	265.06	11	65.15	13			330.21	12



軟式野球競技

軟式野球成年の部は13日、四会場で熱戦の火ぶたを切った。午前8時から開会式が行われ、本県代表で初出場の東芝横須賀は、千葉県代表に続き9番目に堂々の入場行進を行い、スタンドを埋めた観衆から盛大な拍手で迎えられました。

東芝横須賀は、県営春日野運動場で兵庫県代表の名門三洋電機洲本工場と対戦し、1点を争う好ゲームを展開しましたが、立上りの攻防が明暗を分け、そのまま勝敗に現れて、0対1で惜敗しました。

試合は一回表三洋電機洲本工場が二死一、三塁の好機に三塁エラーで1点を拾ったのに対し、その裏東芝横須賀は一死二塁のチャンスに二塁走者が投手の巧みなけん制に倒れる悲運があり、その後の健闘も空しく敗退しました。

東芝横須賀は初出場とは思えぬ機敏なプレーを攻守に見せて、軟式野球の名門三洋電機洲本工場に対し善戦してスタンドの称賛を浴びました。来年の活躍を期待します。

軟式庭球競技

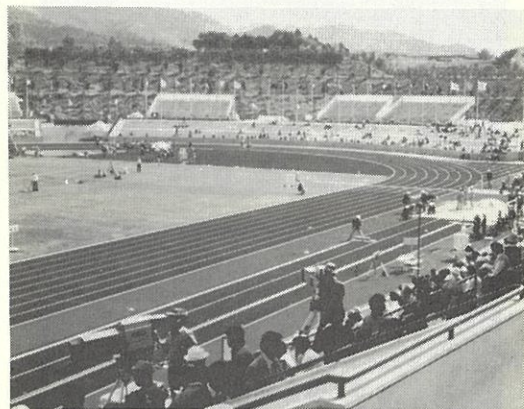
軟式庭球競技の部では本県より1)少年女子、2)成年女子、3)成年男子の3種目がそれぞれ、県、関東代表で出場。選手団を紹介すると下記のとおりです。(川崎市より6名出場)

	氏名	所 属		氏名	所 属
少年女子	監督	吉田賢治 厚木東高校	成年男子	監督	伊達逸幸 旭化成
	選手	谷口 薫 相洋高校		岩崎恵美子 旭化成	
		小宮久美子 足柄高校		佐藤 聖 旭化成	
		藤沢 郁子 伊勢原高校		藤原洋子 ウイニングクラブ	
		池田智子 伊勢原高校		渡辺利子 ウイニングクラブ	
		千石由花 多摩高校		木村恵子 旭化成	
	西川久恵 高津高校		真藤恭子 青山学院大学		

	氏名	所 属	氏名	所 属
成年男子	監督	笠井達夫 湘南クラブ		
	選手	西田豊明 教員クラブ	垂水鴻児 井上クラブ	
		石井源信 東京工業大学	鈴木克文 関東自動車	
		黒田延敏 ウイニングクラブ	内田 一郎 教員クラブ	

競技は奈良県立明日香村庭球場に於て、13日から16日の日程で開始され、私は15・16日の成年男子、女子の2種目について観戦する。

当県の戦績は、初日の少年女子が1回戦で岡山県を2対1で破り、2回戦に進出したが、第2シードの福岡県に1対2で、成年女子が1回戦で和歌山県に1対2で、それぞれ健闘空しく惜敗、残る成年男子は第36回大会優勝、第38回大会第3位の好成績から上位入賞の大きな期待がかけられた。1回戦は第3シードの為不戦勝、2回戦は強豪の大阪を3対0のストレートで破り、3回戦には第37回大会優勝の宮崎県を2対1で破り、準々決勝に進出。ダークホースの愛知県と対戦。前半リードするも後半愛知の捨身の戦法に押し切れられ1対2で涙を吞んだ。戦前の神奈川に対する評価が良かっただけに残念ではあったが、ここに選手団の健闘を称えたい。



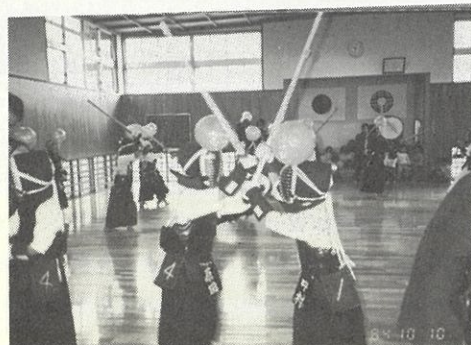
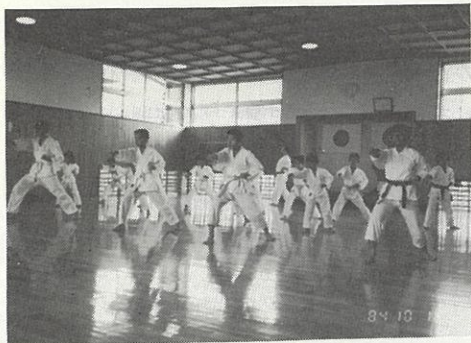
第39回国民体育大会本会場

いい汗かこう体育の日——市民スポーツレクリエーションの集い——
——盛大のうちに幕を閉じる！

今年の体育の日のスローガンは、“みんなでいい汗かこう体育の日”で、心配された天候にもめぐまれ、中原区の等々力緑地公園を中心に富士見公園、大師公園、川崎市体育館、川崎市石川記念武道館でそれぞれ展開された。10月10日体育の日を記念して各会場でいろいろなスポーツレクリエーションの集いが繰り広げられ、初めての人も、ベテランの人も、友人や家族と連れだって気軽に、生活のなかにとりいれるべく参加していただいた。

—— 各会場でのスナップから ——

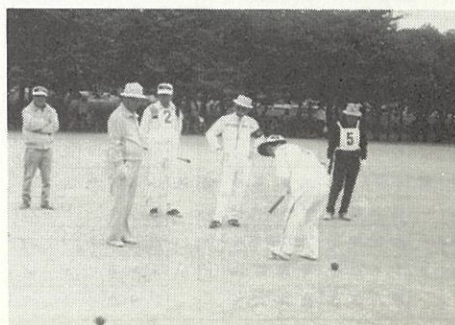
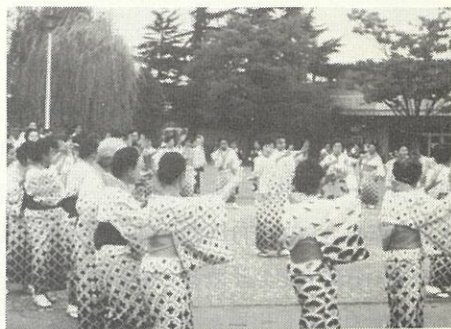
武道館会場（空手、剣道）



サッカー会場でお父さんたちも練習



等々力緑地会場 上から民踊、フォークダンス、ゲートボール



県総体川崎市が優勝

— 4年ぶり15度目 —

神奈川県総合体育大会は、9月30日(日)の秋季大会の終了をもって幕を閉じた。最終日は、藤沢市の県立体育センターを中心に相模原市立総合体育館、県立武道館等で8競技の決勝が行われ、川崎市が小田原市を1点差で抑えて第31回大会以来4年ぶり15度目の優勝を飾った。

1. 総合成績

第1位	川崎市	281点
第2位	小田原市	280点
第3位	横浜市	277点

2. 上位入賞種目

○冬季大会

スキー競技	3位	3月2日～4日	長野県戸隠
-------	----	---------	-------

○夏季大会

軟式庭球	3位	8月19日	平塚市立軟式庭球場
------	----	-------	-----------

水泳競技	男子優勝	8月26日	県立体育センター
------	------	-------	----------

○秋季大会

バドミントン	優勝	9月15日、30日	相模原市総合体育館
--------	----	-----------	-----------

バスケットボール	ブロック優勝	9月15日、30日	平塚市立見附台体育館
----------	--------	-----------	------------

卓球	3位	9月30日	秩父宮記念体育館
----	----	-------	----------

外野席

友人に誘われて、河口湖のフルマラソンに参加してみた。6400人余りが、自分の力に応じて、速い人、遅い人、友人と話しながら走る人、親子で並んで、独りで黙々と等しい思いに走っていた。何kmか走るとペースを落す者や歩く者も出てきたが、皆それぞれに走ることを楽しみながら参加しているようだった。

高校生の時の10km校内マラソン以来、20年ぶりのレースだったが、なんとか完走することができた。底の薄いシューズをはいていたせいか、35km付近から膝が痛みだし、もうやめようかと思ったとき、宿で同室だった大阪の人が追い越しながら「痛むんですか？何とか完走だけはしましょよ」と声をかけてくれた。市民スポーツのよさがここにも一つあった。

第5回市民スケート大会参加者募集

誰でも手近なリンクで楽しめるスケート大会を下記の通り開催しますので是非ご参加を。

- ・日時 昭和60年2月24日(日)午後5時集合
- ・会場 向ヶ丘遊園スケートリンク
- ・参加資格 市内在住在学在勤者の健康な者
- ・種目

①小学生

200m、400m(1～3年、4～6年)

②中学生、高校・一般

500m、1000m

- ・参加料 小中500円、高校700円 一般1000円
- ・締切日 昭和60年2月8日迄に必着のこと
- ・申込方法 ハガキに氏名年令(学年)種目住所電話を明記しお申込み下さい。
- ・申込先 川崎市川崎区宮本町6
川崎市体育協会
- ・表彰 種目毎に賞状。1位に優勝楯贈呈

スポーツ今昔

県下勤労者自転車駅伝競技

＝ 3時間16分37秒で走破 ＝

藤沢自協組快勝 M・P白バイが協力

我が国初の注目を集めた実体連と神奈川新聞社共催の八市縦断第1回県下勤労者自転車駅伝競走は昭和26年3月26日に決行された。

前夜までの小雨もやみ、好天にも恵まれ川崎富士見公園前のスタート地点はつめかけたファンとの興奮と歓喜の声でごったがえしていた。

午前10時、平田忠心審判長（県自転車連盟理事長）の号砲一発いっせいにスタートした。

快晴の中、とぎれることのない群衆の前を銀輪は連らなり走破。箱根のゴールまで120kmを走破した。

スタートするや米軍の好意によってMP白バイ3台、県警白バイ2台の出動で交通整理に万全を期したため選手も安心してレースを進めることができた。

第2区杉田一船越（11km）岡田屋の印南選手が他選手を引離し、その他は一団となって走る。第3区船越—藤沢遊行来下（22km）逗子駅附近から岡田屋の太田原選手が断然たる実力で二位の藤沢チームを4kmも離した。第4区藤沢—平塚（15km）で地元藤沢チーム大塚選手が追撃急ピッチで岡田屋を抜き第1位に出た。続いて岡田屋、平塚新聞が一団となって到着した。 ↗

第5区平塚—小田原（20km）この辺から藤沢の椿が得意の逃げで頑張り、2位岡田屋の田渕選手を約3km離しゴールに突入した。

1位	藤沢自協組	3時間16分37秒
2位	岡田屋	3 18 42
チ	3位 小田原電通	3 20 16
1	4位 日本鋼管A	3 21 33
ム	5位 平塚新聞	3 22 16
成	6位 昭和電工	3 26 5
績	7位 平田自転車店	3 26 21
	8位 横須賀自協	3 28 42
	9位 関配神奈川	3 28 43
	10位 日本鋼管B	3 34 39

3区までの岡田屋は優位を保ち、大田原の力走で2位以下を4kmも引離し優勝かと思われたが、藤沢の大塚選手の力走が功を奏し、茅ヶ崎で岡田屋を破りトップに立ち、地元沿道の声援に闘志を燃やし本大会の優勝を飾った。平塚の平田自転車は茅ヶ崎で不運の故障で勝利圏外に去った。このアマチュア競技は、競輪と違って最後で頑張ればよいと言うものでなく、サイドコーチのリードと平均したスピードベースが必要である。

＝ 編集後記 ＝

あけましておめでとうございます。

昨年から今年にかけて川崎市の市制60周年を記念して、各種目の大会が行われています。

これを機に各種目ともより充実したものへの飛躍を期待しますとともに、われわれも微力ではありますが、その一助となるよう頑張りたいと思います。

市制60周年記念川崎市民マラソン大会

日時 昭和60年3月10日(日) 午前10時
コース 等々力緑地—稲田中学校前折返し
種目 10km、20kmの二種目(男女別)
定員 先着1500人
申込期間 昭和60年1月21日～1月31日
申込と問合せは→川崎市教育委員会体育課

☎ 044-200-2111(内)3312